

## 文化批評論 (その2)

2単位 2年(後期)

吉田 文美・准教授 / 人間文化学科

**【授業目的】** この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。

**【授業概要】** 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、前期に引き続き、Keith Sanger 著の The Language of Drama の後半部 (Unit 4-7) を読み、ドラマ(舞台劇, ラジオドラマ, TV ドラマ, 映画等)の台詞として使われる言語の特徴について分析する。

**【キーワード】** ドラマ, 言語, 文学

**【先行科目】** 『文化批評論 (その1)』 (1.0)

**【関連科目】** 『比較文化研究 (その1)』 (0.5), 『比較文化研究 (その2)』 (0.5), 『英米の社会と文化 I (その1)』 (0.5), 『英米の社会と文化 I (その2)』 (0.5)

**【履修上の注意】** 2005年度より、隔年開講となる。2011年は開講しない。

**【到達目標】** 講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。

**【授業計画】**

1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.)
2. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 43-46)
3. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 47-50)
4. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 51-52); Unit 5 Storytelling (pp. 53-54)
5. Unit 5 Storytelling (pp. 55-58)
6. Unit 5 Storytelling (pp. 58-61)
7. Unit 5 Storytelling (pp. 61-64)
8. Unit 5 Storytelling (pp. 64-68)
9. Unit 6 The grammar of sound (pp. 69-72)
10. Unit 6 The grammar of sound (pp. 73-76)
11. Unit 6 The grammar of sound (pp. 77-80)
12. Unit 7 Book to film (pp. 81-84)
13. Unit 7 Book to film (pp. 84-87)
14. Unit 7 Book to film (pp. 88-89)
15. Final Test or Final Paper
16. Review

**【成績評価】** 授業への出席状況, 各自の担当箇所の読解, 授業中の課題 (50%程度), 最終テストまたはレポート (50%程度) により評価する。

**【再試験】** 評価が50%以上の者のみ実施する。

**【教科書】** Keith Sanger. The Language of Drama (Intertext). London: Routledge, 2001

**【参考書】** 授業中に指示する。

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218992>

**【連絡先】**

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

**【備考】** 隔年開講(後期)。平成23年度開講せず